

# 便利になった交通アクセス おいでください 夏の三宅へ



「橘丸」就航!

6月27日に就航した東海汽船の「橘丸」

- ◎ご予約・問い合わせ先
- ①新日本中央航空 調布飛行場 ☎0422(314191)
- ②東海汽船 6月27日から橘丸就航 ☎03(5472)9999

被災して以降、観光客の減少に悩んでいた島に明るい光が見えはじめています。それは、新造定期船の就航や調布飛行場からの安定した空路の実現などで、これにより島を訪れる人の増加が期待できることだ。これにもない、島で開かれる「牛頭天王祭」などのお祭りや「マリンスコーレ21フェスティバル」などイベントの準備にも、これまで以上に力が入っている。

今年の夏に向けて、定期船や飛行機など島への交通アクセスが一新された。それに伴って、観光客の増加や、島出身者が

在京者が、夏祭り、お墓参り、空き家の見回りなどのために帰島する機会が増えることも期待されている。

④東邦航空・東京アイルランドシヤトル(大島・御蔵島・ヘリコプター) ☎04996(2)5222

## 【夏のイベント】

○牛頭天王祭(ごすてんとうてん)は、7月19日夜・宵の宮で踊り、20日本宮で神輿が地区内を巡行する。都の無形文化財に指定されている木遣太鼓を先頭に、神輿を海に入れて海難法師も祈る。

○マリンスコーレ21フェスティバル 8月2日〜3日に商工会主催で盛夏の最大のイベントであるマリンスコーレ21フェスティバルが実施される。

例年、八丈島・御蔵島のフラダンス友情出演、郷土芸能、くじ引きの豪華賞品や東海汽船ご招待。最後に大花火の打ち上げ。被災地や伊豆諸島ご支援で長期噴火災害復興・再生を見せる。

観光客・出身者は、安定して就航する飛行機と新造船でぜひ三宅島へ!!



欠航が少ない調布飛行場からの飛行機

# 三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク  
〒100-1101  
東京都三宅島三宅村神着 320-2  
Tel. 090-4922-0798  
発行人：会長 佐藤就之

## 事務局便り

○第36回世話人会(6月7日巢鴨にて開催)  
先日行われたあおぞらフェスタの反省会をしました。皆様のおかげで無事に終わりました。ご協力ありがとうございました。ご協力ありがとうございました。

※次回の世話人会は、9月6日を予定。

○お願い  
お引越し等、住所・電話番号が変わられた方がいらっしやいましたら、事務局までお知らせください。

【三宅島ふるさとネット事務局】  
郵便番号：173-0005  
住所：板橋区仲宿 25-6  
電話：03(3963)5678  
FAX：03(3963)5697  
担当：栗原

## ご寄付のお願い

謹啓 平素は「三宅島新報」を「愛読賜り、厚く御礼申し上げます。」

三宅島は、来年2月で帰島10周年を迎えます。全島避難前人口は3829人。避難中の死者200人、在籍流出者は500人。14年5月1日現在の人口は、2720人です。

私たちは、帰りにたくても帰れない在京者支援、ふるさと再生、全国に情報発信を目的に、訪問活動や「三宅島新報」発行等に取り組んでいます。

これらの活動は、皆さまの尊いご寄付で運営しております。「郵便振り込み用紙」を同封いたしました。ご理解の上ご支援くださいますようお願い申し上げます。謹白

# 島の話題あれこれ

## 激励イベントなど実施

三宅島のさらなる復興に向けて、様々な取り組みが行われている。8月17日には「がんばれ！ふるさと」で完全復興 三宅島・東日本・伊豆大島と新宿で開催されるほか、「島市」は今年度5回開催される。また、兵庫県南部大地震ボランティアセンターからは、阪神・淡路大震災の瓦礫処理に使われた焼却炉を改造したパン焼き機で作られたパンが届いた。

### 復興日舞とロックで支援

「がんばれ！ふるさと」で完全復興 三宅島・東日本・伊豆大島と」の激励イベントが8月17日(日)午後5時30分から角筈区民センター(西新宿4-33-7)で開かれる。場所は、新宿駅西口から巡回している「WEバス西ルート」に乗り、ホテルの「パークハイマツト東京」下車、す

**がんばれ！ふるさと**  
～完全復興 三宅島・東日本・伊豆大島～  
平成24年8月17日(日)  
角筈区民ホール(新宿区西新宿4-33-7)  
開場16:30～ 開演17:30～  
1部 ショー&復興トーク  
2部 スペシャルセッション  
日舞とRockの融合ほか・・・

被災地復興特産品即売会  
舞踊家・鶴吉  
「せめてうたや踊りでがんばるための力になりたい」  
三宅島日本舞踊を創り上げた、石原邦子氏の舞踊教室、プロとして活動開始。形長太夫、美空ひばり、藤原釜足、島崎雪子、三宅島からの公演、舞台の音楽等「舞踊家としての活動」  
舞踊家・鶴吉(東京府)、三宅島(三宅島ふるさと再生ネットワーク会長) niyake-furusato.net/top.htm  
MC : 小山彰子 (DJ、スマイル代表)

ショー出演: 今井宗樹 (ギタリスト)、山口裕子 (ボーカリスト)、竹内直理 (ピアノ)、平野幸典 (音楽家)、室田純子 (シャンソン歌手)、前田富博 (パーカス)、成田実由 (DJ)

トーク出演: Nancy 藤戸 (NPO法人水守の部セブ音・制作専攻) 主催団之 (三宅島ふるさと再生ネットワーク会長) niyake-furusato.net/top.htm MC : 小山彰子 (DJ、スマイル代表)

全席指定前売り ¥2500 (当日 ¥2800)  
チケット予約・問い合わせ 鶴吉プロダクション ☎(03)3341-3188 Fax (03)5919-3389  
☎ turukiti@kd.biglobe.ne.jp  
主催 鶴吉プロダクション  
後援 Nancy, Mizuho, 特定非営利活動法人水守の部セブ音

8月17日に実施の激励イベントのチラシ

ぐに交差点角に見える。イベントは、1部がショー&復興トーク、2部がスペシャルセッションで、日舞とRockの融合ほかとあり、老若男女が楽しめそうに期待が持てる。

出演者は、舞踊家・鶴吉さんをはじめ、ギタリスト、ボーカリスト、ピアノリストから書道家、シャンソン歌手など多彩な面々である。どんな舞台になるのか、今から楽しみだ。

トークには、ネット佐藤会長なども出演、また三宅島から明日葉など即売をする予定。

ぜひそれぞれ誘いの上、多数の参加をお願い

**【訃報】**  
**金井正歩氏死去**  
金井正歩氏(かない・まさゆき)元三宅村役場総務課長)6月7日死去、76歳。喪主は妻房枝(ふさえ)さん。自宅は、坪田元高濃度地区。退職後も各団体の役職を歴任した。火山ガス問題を独自にデータを集め、特に専門家との論戦で、高濃度地区住民は帰

島後も避難継続中であるとの答弁を引き出し支援を継続させ、行政・専門家と島民との認識の乖離を鋭く指摘した。「三宅島新報」11年3月1日第32号の2、3面で高濃度地区の解決をとの寄稿文を寄せられた。突然の訃報に驚くとともに、まだまだ貴重な助言を期待していたのに残念でならない。謹んで哀悼の意を表します。

**兵庫からパンの贈り物**  
兵庫県南部大地震ボランティアセンターから5月に三宅島にもパンの贈り物があつた。95年の阪神・淡路大震災後ガレキの焼却炉を、10年にパン焼きに変身させた。数回御馳走になったが、今年は東北・関東被災地に届けた。被災地は、かくありたいと感銘を受けている。

します。全席指定でチケットは前売り2500円(当日2800円)  
○主催 鶴吉プロダクション(問合せ 03-3341-3186)  
平成26年度の「島市」の開催日程が決まった。  
○第22回目  
・日時 8月17日(日) 午前10時30分から午後1時まで  
・場所 三宅島漁業協同組合駐車所(阿古)但し錆ヶ浜で出帆時には

12時30分終了  
○第23回目  
・日時 9月21日(日) 午前10時30分から午後1時まで  
・場所 三宅島漁業協同組合駐車場(阿古)錆ヶ浜出帆は前記の通り  
○第24回目  
・日時 11月16日(日) 午前11時から午後1時まで  
・場所 三宅村コミュニティセンター(伊ヶ谷)

・場所 三宅村臨時庁舎 駐車場(阿古)  
○第26回目  
・日時 27年3月8日(日) 午前11時から午後1時まで  
・場所 三宅村コミュニティセンター(伊ヶ谷)以上5回開催される。  
ネットも参加している。商工会の努力により定着しているが改善点としては、収穫期の春と秋には地産地消を目的として主に農家の野菜(期待度は高い)を販売。  
夏のイベントには観光客を重点に、出店する工夫があつてよいと思う。今後の課題であろう。

東日

本大震災の被災地で

ある岩手県大槌町の現在の状況を大槌保育園理事長の古館潤一さんに寄稿していただいた。人口は減ったものの住民は前向きに生活しているが、魅力のある職が今後の復興に欠かせないという。

# 被災3年後の大槌町 必要な魅力のある職

寄稿 大槌保育園理事長 古館潤一さん



民宿に乗り上げた観光船

大きな被害を受けた被災時の大槌町

## 被災当時の状況

古館さんが理事長を務める大槌保育園は、3月11日の保育中に地震に遭った。

古館さんはじめ、保育士のみなさんは、子どもたちを連れて避難し、3日後までにすべての子どもを保護者に引き渡した。

その後日本ユニセフなどの力も借り、仮設の園舎で6月1日には保育を再開した。

## 漁業の町を襲った惨事

平成23年3月11日に発生した東日本大震災による3年経過した岩手県大槌町は、岩手県の東部、

陸中海岸国立公園の中央に位置し、「ひよっこりひよたん島」のモデルにもなったと言われる蓬萊島(ほうらいじま)がある風光明媚なところ

## 人口22%減でも前向きに

震災前の町の人口は、1万5千222人でしたが死者数855人、行方不明者429人、他市町村への転出者2千131人、現在1万1千807人で、主に漁業を生業とした小さな町でした。地震後、テレビの報道等で民宿の屋上に隣の釜石市の観光船「はまゆり」が乗り上げていた映像を全国の方々が見たと思いますが、あれは観光船が造船所で修理していたところ大津波により上がった産物ですが余震等で危険だということで解体し撤去されました。

震災前の町の人口は、1万5千222人でしたが死者数855人、行方不明者429人、他市町村への転出者2千131人、現在1万1千807

人で、およそ22%も減少したのです。

震災により多数の尊い命を失い、また市街地が壊滅的な被害を受けたことで、多くの方々が町外への避難を余儀なくされるなど、厳しい環境下にあります。一方、確かに大きな痛みを受けましたが、これほどの甚大な被害にも関わらず多くの方々がこの町での暮らしを選択し、仮設住宅等で不便しながらも隣近所の方々とともに前向きに生活しています。

震災当時の町長をはじめ町職員のおよそ4分の1が犠牲となり町の行政機能が麻痺した。町の復興計画の策定が遅れたのは、そんな状況も理由の一つに挙げられるのではないのでしょうか。

## 未来につながる復興を

これまで、町におけるまちづくりの計画は、行政が主動となっていました。震災後は、今後永く住み続ける町民が主体性をもって意見を出し合い議論することが、町の

存続につながると思つてます。官民協働により中学生から老若男女問わず参加し、町民の心意気を見せており復興のまちづくりは単なる復旧ではなく、将来の発展につながる復興を実現させなくてはなりません。

この3年間、町では社会基盤整備を中心に復興事業に取り組んできましたが、今後は、町民の暮らしを支える環境を早急に整えないと定住できなくなります。生活環境だけでなく、地域資源と風景を再生し、これを活かした産業を復興し、魅力ある職と生業の場を確保しなければ住民の暮らしが成り立たないのです。

街中は瓦礫もなくなり、災害公営住宅が少しではありますが出ておりますが再生区画整備事業、防災集団移転事業等の早期実現が望まれています。

この3年間、全国、世界各国の多くの方々から多大なご支援、物資等のご協力をいただきました。ありがとうございます。

# 「あおぞらフェスタ」に今年も出店

## 島直送のタケノコやくさやなどを販売

5月18日に開催された神楽坂商店街恒例のあおぞらフェスタに、ふるさとネットでは「三宅島物産店」を出店。島直送のタケノコや島海苔、くさや、明日葉などを販売し好評を博していた。また、バルーンアートの実演販売、および買い物をした方へのプレゼントも行われ、子ども連れなどの目を引いていた。

今年度第1回目の神楽坂あおぞらフェスタは、神楽坂6丁目商店街を歩行者天国にして、5月18

日の12時から18時まで実施された。今回の出店ではふるさとネットでは、島の特産品である明日葉をはじめ、焼くタイプ、焼かないタイプ、両方のくさや、島海苔

など商品を店頭と並べた。中でも島から直送した新タケノコは、この時期だけのものということもあり、早々に完売となる人気ぶりであった。また、物産店ではくさやの試食も行われ、通りがかった人たちが興味深そうに味を確かめていた。このほか、島海苔や

焼くタイプのくさやも終了時間の1時間前までには完売するなど、物産店の売れ行きは好調であった。

### バルーンアートも好評

今回の出店では、バルーンアートの製作実演販売も行われた。ハート形のバルーンやプードルのバルーンなどが座間さんらによって作られ、寄付を募った。また、買い物をしてくださった方には無料で配られ、子ども



タケノコなどが好評だった三宅島物産展



子どもたちに人気だったバルーンアート



駆けつけた支援者と記念撮影

### ご寄付者名

(4/17～6/21)

佐藤宗ノ子様 横井和之様  
倉持房枝様 吉田信行様

・光安さんからフェスタに物品寄付  
ご協力ありがとうございました。

### 〇ご寄付の振込先

郵便振替口座  
口座番号：00120-3-545036  
口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク

### DTPA 新会長 岩崎佑亮

#### 「風化させないため継続を」



今年度より、DTPAの会長を務めることになりました。DTPAに入会してから期間は短く、正直、三宅島に関する知識もまだ少

ないのが現状です。しかし、発行が50号を超え、島民のみならずの橋渡しとなる情報提供の役割を果たしてきた、そんな「三宅島新報」の発行に少しでも関わっていることをとても嬉しく思います。私たちにできることは三宅島の災害を風化させないように活動を続けることだと考えています。至らない点も多いと思いますが、メンバーと協力をして力を尽くしていきます。

### 編集後記

来年度の2月で帰島から10年になる三宅島は、今は元気な姿を島外に発信し、観光客の増加に繋がっていくことが大切だと思っています。DTPAのメンバーも、観光客として島を訪れ、三宅島の夏を満喫したいと考えています。これからよろしくお願ひいたします。

(DTPA一同)